

第1997回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和7年1月9日（木） 午前10時開会
午前10時39分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、坂東教育長職務代理者、小林委員、首藤委員、櫻井委員、今井委員、佐藤副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、吉田市町村支援部長、案浦参事、小谷野教育総務部副部長、廣川魅力ある高校づくり課長、田沼教職員課長
平野書記長、小島書記、三橋書記、大久保書記、星野書記、縣書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
 - 日吉教育長が、令和6年12月27日付けで教育委員会委員に就任した今井房子委員を紹介した。
 - 日吉教育長が、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、坂東委員を教育長職務代理者に指名した旨報告した。
 - 日吉教育長が、今井委員の就任に伴い、埼玉県教育委員会会議規則の規定に基づき、各委員の議席を指定した。
- (1) 前回議事録の承認
 - 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 日吉教育長が、首藤委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 協議事項
魅力ある県立高校づくりの方針（案）について
廣川魅力ある高校づくり課長（提案理由、方針の趣旨、方針の構成について説明）
坂東教育長職務代理者 資料3ページ「方針の策定に当たって」についてですが、

8年前に作られたものについて、社会が大きく変化をして、それに応じたものを作り直していく作業に当たられていると思うのですが、今回の方針案について、改定のポイントとなるようなところはどこにあるのでしょうか。もう1点、県民へのアンケートが行われていると思うのですが、アンケートの結果はどのように反映されているのでしょうか。

廣川魅力ある高校づくり課長 まず一つ目、方針案のポイントでございますが、これまで以上に中学校等卒業生数が減少していることが見込まれている中で、引き続き、再編整備を実施する旨を記載しているところでございます。その際、社会の変化も踏まえまして、高校の特色化や活性化を図っていくことが大変重要だと考えており、そのため本方針案の中では、今後設置を検討する特色ある学科や学校をできる限り具体的にお示しをしたことは、一つポイントになるかと思っております。また、全体を通してですけれども、オンラインなどを活用して各学科の学びを共有していくことなど、ICTを活用した教育活動の充実について様々なところで記載をさせていただいたこともポイントと考えております。二つ目の御質問、アンケート結果の反映については、県立高校の特色化についてアンケートをした中で、「高校で勉強したいことは何か」を質問しております。その中で、「実社会での活動に向けて学んだ知識を総合的に活用し、考える勉強」を選択した中学生と高校生の割合が、中学生が12.5パーセント、高校生が15.2パーセントということで比較的高くなってまいりました。このような回答も踏まえまして、第2章や第3章において、教科等横断的な学び又は地域や企業などとも連携し、地域の課題解決などをテーマにした学習、あるいは産業構造の変化に対応した実践的な学びの推進などを記載しているところでございます。また、「学びたい学校、今後必要と考える学校」というような質問もしてまいりまして、「教科や科目を自ら選択できる総合学科や単位制の高校」を選択した中学生が22.6パーセント、「複数の学科を設置し、学科を越えて連携・協働した学びができる高校」を選択した中学生保護者も28.1パーセントいました。このような回答も踏まえまして、「設置を検討する特色ある学科・学校」の中では、普通科と専門学科や異なる分野の専門学科の併設の検討のほか、特色ある学びができる教科の充実した総

合学科の設置の検討などを記載させていただいております。

坂東教育長職務代理者 これからの子供たちが、通いたいと思うようなものを提案しているということですね。また、魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議の参考資料も入っておりますが、その方たちの御意見などは方針案にどのように反映されているかお聞きしたいです。

廣川魅力ある高校づくり課長 アドバイザー会議も方針案策定に当たりまして、有識者や教育関係者などにお集まりいただいて、様々な御意見を頂きました。その中では、例えばオンライン授業やオンデマンドの配信などを活用して、専門性の高い授業を他校と共有していくことが必要ではないかという御意見も頂いており、県立高校全体で生徒の幅広い学びの機会の提供に努めるという部分に、反映をさせていただいております。また、専門学科の学びとしまして、社会の変化に対応して新しい技術の学びを実現することが必要ではないかという御意見も頂いておりますので、産業構造の変化に対応した実践的な学びの推進や、デジタル社会の進展など社会の変化に対応した学科の設置を検討するといった部分に反映をさせていただいております。

首藤委員 資料5 ページ「2 各学科（課程）」にある「（2）専門学科」について、普通科における学びと専門学科における学びを共有すると記載があります。様々な学校を視察に行きますが、普通科を視察したときは、どちらかというと教科書の中での学びが中心となっています。ですから、教科等横断的な学びや探究的な学びをもっと推進することが大事だと感じていました。また、専門学科を視察したときは、正に産業に直接関連した、中にはSDGsに直結するような分野もありますから、そこでの学びもとても有効だと思っていました。更に専門的に学びたいと思っている生徒のために、大学進学などの進路指導に力を入れている高校がありました。専門学科と普通科の学びを共有するという考え方はとても大事だと思いますが、具体的にはそれぞれの学校にどのような学びが共有できるとお考えなのか、お聞かせください。

廣川魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、今、社会が大きく変化していく中においては、だんだんと、普通科だから普通科だけの学び、専門学科だから専

門学科だけの学びという時代ではなくなっており、そこは相互乗り入れのよいことを進めていければと考えております。普通科では、大学進学に向けて普通教科の高度な学びや補習などを行っている学校もあります。専門学科も大学へ進学を希望する生徒が増えてきておりますので、例えばそのようなものを専門学科にも共有をしていけたらよいと思っております。また、専門学科では、簿記などのいわゆる資格取得のための授業や補習、あるいは工業科におけるプログラミングなどの専門的な学びを行っています。普通科に通っているけれどもそのような学びも少し興味があるという子供たちが、学ぶことができ、刺激を受ける場を設定していくことも重要かと考えております。

首藤委員 教育課程の編成は、なかなか大変な作業だと思います。ですから、二つの教育課程をうまく交流できるようなものを、是非作っていただきたいと思えます。

櫻井委員 資料7ページ「県立高校の再編整備」について、2点お伺いします。まず1点目は、基本的な考え方の一番下に、再編整備の観点で3点挙げられていますが、これまでの計画などから、何が変わったのかということと、これから先、再編整備をしていくに当たり、様々な事情が出てくると思いますが、この3点の観点だけで考えていくのでしょうか。2点目は、学校規模の維持ということで、1学年当たり6学級以上が望ましいということが資料には書いてありますが、地域によっては小規模になっても、どうしても学校を残してもらいたいという要望など、学校を残していく必要のある地域が出てくるところもあると思いますが、その辺りについて、どのようにお考えなのか、お伺いします。

廣川魅力ある高校づくり課長 まず1点目の再編整備の観点について、これまでとどの辺りが変わっているのかという御質問かと思えます。今後、高校を減らしていかざるを得ない中において、アンケートの中で生徒からの意見としてありましたが、通学の便利さを重視している傾向がございます。そのため、通学できる範囲に高校があることが重要というところは、我々としても意識していく必要があると考えております。そのような点で交通の利便性、通学の状況を、これまでも再編の中で配慮はしてきましたけれども、その辺りは改めて明記させていただ

ております。基本的な考え方については、これまでの考え方を踏襲しておりますが、そのようなところを追加させていただいております。また、再編整備の観点ですが、基本的にはこの３点の観点をベースに検討を進めていきたいと考えております。具体的な再編整備校を決定していく中で、個別に検討が必要な事項が出てきましたら、その辺りは総合的に考える中で検討していくものと考えております。もう１点、地域の状況を踏まえて考えていくのかについてでございます。委員お話しのとおり、子供が減ってきている中において、一定の学校規模を維持していくことは、なかなか難しいところが出てくるだろうと思っておりますし、現に出てきているところもございます。一定の学校規模を下回ったからといって、直ちに再編整備の対象ということではなく、地域の状況等も考慮しながら、総合的な判断をしていく必要があると考えております。そのような中では、地域によって小規模でも、ここには高校を残していかなければならないというものが出てくる場合もあると考えておりまして、その辺りは、今後実施方策を検討していく中で、総合的に考えさせていただきたいと思います。

小林委員 二つ質問があります。まずは、今の櫻井委員の御質問にも関係しますが、資料８ページ「２ 中学校等卒業者数の見込みと今後の県立高校数」について、具体的な数字が記載され、特に地域別の校数なども記載されておりますが、改めてこの辺りの数をどのように算出したのか教えてください。

廣川魅力ある高校づくり課長 再編整備校数の算出に当たりましては、全体の県立高校数について、まず令和２０年４月時点の県立高校への進学者数の推計を基に、一定の学校規模、６学級以上を維持した場合に必要な高校の数を試算しまして、それを基に何校必要になるのかというところを出させていただいております。地域別の校数につきましては、県全体の規模を前提としまして、地域別の中学校卒業者数の減少の状況や、あるいは地域の高校の数がどれぐらいあるのかといったところも考慮しながら、算出したものとなっております。

小林委員 ありがとうございます。もう一つは、資料９ページ「３ 設置を検討する特色ある学科・学校」にある「（１）普通教育を主とする学科及び専門学科」について、なぜ普通科以外の新しい学科を、普通教育を主とする学科として設置

をするのか、御説明をお願いします。

廣川魅力ある高校づくり課長 現状、本県において普通教育を主とする学科としては、いわゆる普通科のみとなっております。先ほどの国の取り巻く状況の中でも御説明させていただきましたが、国において普通科改革の制度改正がございまして、令和4年4月から普通教育を主とする学科の中に、地域との連携した学科などを作ることができるような制度改正がされてきているところでございます。普通科と言いますと、何となく一斉、画一的な印象を持たれている中で、なかなか学校の特色を出すことが難しいような学校も全部ではありませんが、中にはあるところでございます。そのような学校において、地域との連携や探究的な学びを重点的に行う科目を設定する学科を持つ学校を作っていくことは、生徒の興味関心を高めることにつながり、高校の特色の一つになっていくのではないかと考え、普通教育をする学科の中に、そのような新しい学科の設置を考えていきたいと思っていますところでございます。

今井委員 資料9ページにある「(3) 高い語学力や思考力を育む、国際教育プログラムを導入した学科」について、具体的に国際教育プログラムとはどのようなものか教えていただけますでしょうか。

廣川魅力ある高校づくり課長 国際教育プログラムについては、例えば、国際バカロレア機構が提供するプログラム、あるいはケンブリッジ大学国際教育機構などが提供するプログラムがあると研究しているところでございます。プログラム終了後、認定の試験を受けまして、一定以上の点数を取れますと海外大学への受験資格等が得られるプログラムになっております。そのような資格が取れるということと併せて、高い語学力を身に付け、探究的な学びができるということで、ひいては国際的に活用するための資質能力の育成につながっていくだろうと考えております。他県でも、国際教育プログラムを導入している学校がございますけれども、英語や数学、理科の授業、あるいは探究活動などを英語ベースで進めているところもございますので、そのようなところも参考にしながら、検討をさせていただきたいと思います。

坂東教育長職務代理者 今、県立高校と私立高校との受験者数の問題については、

どの都道府県もあると思います。その中で、県立高校と私立高校との特色を分けるとすれば、地域に根差したと言いますか、地域を活性化する、県立高校に入っただけの子供がその地域を理解するなど、そのようなメリットもあると思います。やはり、県立高校であるがゆえの利点を生かすとするれば、例えば、ある高校に行ってしまうと、この授業が受けられないということがなくなるような、これからはICTを活用し様々な授業を共有するなど、今まで規制されていたところを少し緩和しながら、県立高校ならではの利点を生かして、このような方法であればここで学べるということを、少し工夫をして、魅力ある県立高校づくりに生かしていただければと思いました。

廣川魅力ある高校づくり課長 正に委員おっしゃるとおりだと思います。県立高校の強みとしては、やはりネットワークというところになるかと思いますので、それをうまく活用して、生徒にとってよりよい学びが提供できるような県立高校になれるよう、まだ方針案の段階ではございますが、努めていきたいと考えております。

(3) 報告事項

学校職員の給与に関する条例等の改正に伴う教育委員会規則等の改正について
田沼教職員課長（提出理由、専決処理した理由、専決処理の状況について説明）

(4) 次回委員会の開催予定について

1月23日（木）午前10時